

本文

Q-1. (1) espíritu について。スペイン語では estudiar や esquí など、英語で s から始まる単語で e が付く物がいくつもあります。これは何故ですか？スペイン人は何かの発音が出来ない...？と聞いた気がするのですが...

A-1. スペイン語では s + 子音で始まる単語がないので、外来語などはその前に e がつきます。esqui 「スキー」、esmog 「スモッグ」、espia 「スパイ」など。また、estudiar のようにラテン語から継承した語でもやはり語頭の e があります。これは、s が次の子音と比べて強く聞こえ、それだけで音節を形成したためであると考えられます。s だけでは音節にならないので、一番ニュートラルな母音の e を付け加えたのです。日本語の外来語で英語の子音だけの部分（たとえば home, stay, book）に u や o が入る（hômu, sutei, buku）ことと似ています。

Q-2. (1) 「クリスマス」は英語でも日本語でも「キリスト」に似たような綴りや発音だったりするのに、スペイン語ではどうして Navidad なんでしょう。「キリスト教徒」はスペイン語でも英語と同じように cristianos でしたよね。

A-2. 英語の Christmas は古英語の Cristes moesse に由来し、これは Chist's mass 「キリストのミサ」という意味でした。一方、スペイン語の Navidad は古くは Natividad といい、「生誕」という意味でした。nacer 「生まれる」と同じ語源です。

Q-3. (6)の más amor の más は普段を基準に比較しているのですか？ 訳出しなくても良いのですか？

A-3. 確かに「(普段よりも)もっと」という意味になります。

Q-4. (7)の los inundará...の los の意味がわからない。

A-4. inundar は「...を一杯にする、満たす」という意味です。los は直接目的語で「人」を示すスペイン用法です。主語は una especial alegría です。そこで「特別な喜びが彼らを満たす」「彼らは特別な喜びで一杯になる」という意味になります。

Q-5. (8)でどうして para が使われているのかわかりません。con ではいけないのですか？

A-5. tendrán tiempo para la familia y para los niños の para は「...のために」という意味です。con で「...と一緒に」と表してもよいでしょう。

Q-6. (8)「訳」では「家族や子供たちと一緒にいる時間」とあります。これは意識ですか？

A-6. tiempo pra la familia y para los niños は直訳すれば「家族や子供たちのために使う時間」となります。

Q-7. (8) por + 不定詞と para + 不定詞 は使い方が似た感じがするのですが、実際どのように使い分ければ良いのですか？

A-7. たしかにとても似ています。辞書などでは、por は行為の出発点となる(内在的な)「動機・理由」を示し、para は「目的、目標、利益」など行為の外にある「到達点」を示すと説明され、次のような例文が挙げられています。

- Voy a España por hablar con el Sr.López.「私はロペス氏に話ができればと思ってスペインへ行きます」(動機)。

- Voy a España para aprender el idioma.「私はことばを学ぶためにスペインへ行くつもりだ」(目的)。

よく見ると por と para は形がよく似ています。それは para が por と a (方向を示す) という 2 つの前置詞が合成してできたためです。

詳しくは次の p.19-p.25 を参照してください。

<http://lecture.ecc.u-tokyo.ac.jp/~cueda/gakusyu/guia/kinougo/zentisi.pdf>

Q-8. (11) racista の冠詞が los になっているので、辞書で調べたところ男女同形だった。なんで男女同形の形が女性形なのか。

A-8. この形は確かに a で終わっていますが女性形ではありません。a は女性形を示す語尾だ、ということではなく、a で終わる語の中には女性名詞が多い、くらいに考えるとよいと思います。ここでは ista という語尾に注意しましょう。スペイン語の接尾辞の ista と英語の ist はラテン語の ista に遡り、さらにこれはギリシャ語の istes に遡ります。これらは ista という形を変化させず語形の上から男性と女性の区別をしませんでした。このように a で終わる語で男女同形のものが他にもあります。たとえば ,patriota「愛国者」、,colega「同僚」など。

Q-9. (11) los racistas について。s と r が続くと s の音が消えて聞こえませんが、これは何故ですか？

A-9. これは音声学の用語で「同化」(assimilation)という現象によるものです。音声は連続して発音されると、単独で発音されるときとは異なることが起きます。この場合、s はその次に来る r (震え音) によって有声化し[z]となりさらに弱まり、そして消失してしまうのです。s の発音のときはまだ r がいないのに、その影響を受けるといのは変に思われるかも知れませんが、発音をスムーズにするために s の発音の時点ですでに r の準備に入っていると考えられます。このように後の音が前の音に影響を与える現象を「逆行同化」(regressive assimilation: asimilación regresiva)と呼びます。

Q-10. この話は、ディッケンズの「クリスマス・キャロル」をもとにしたものですか？

A-10. 昔読んだディッケンズ「クリスマス・カロル」(村岡花子訳, 新潮文庫)がうる覚えだったので読み返してみました。貪欲で非情な主人公スクルージの前に現れた精霊(村岡訳では Ghost=「幽霊」, ghost = (スペイン語) fantasma, espíritu) が彼に本人の過去・現在・未来の姿を見せ, 改心させ, クリスマスという機会に隣人への愛の大切さを説く, という筋を確認すると, 教科書(かつてのスペイン語部会のメンバー: ハビエル・リャノ先生が 1995 年に作成)の 7 課の内容はそれに沿うものだと思います。

Dickens の原文では Ghost は次のように言っています。

'Who, and what are you?' Scrooge demanded.

'I am the Ghost of Christmas Past.' (chap.II)

これは教科書の文(3)を彷彿とさせます。

そして, 次はスクルージの甥の言葉です。これは教科書の Espiritu de la Navidad の気持ちと同じです。

'There are many things from which I might have derived good, by which I have not profited, I dare say,' returned the nephew. 'Christmas among the rest. But I am sure I have always thought of Christmas time, when it has come round -apart from the veneration due to its sacred name and origin, if anything belonging to it can be apart from that- as a good time; a kind, forgiving, charitable, pleasant time; the only time I know of, in the long calendar of the year, when men and women seem by one consent to open their shut-up hearts freely, and to think of people below them as if they really were fellow-passengers to the grave, and not another race of creatures bound on other journeys. And therefore, uncle, though it has never put a scrap of gold or silver in my pocket, I believe that it has done me good, and will do me good; and I say, God bless it!' (chap. I)

また, 「幽霊」自身も次のように言っています。

'Business!' cried the Ghost, wringing its hands again. 'Mankind was my business. The common welfare was my business; charity, mercy, forbearance, and benevolence, were, all, my business. The dealings of my trade were but a drop of water in the comprehensive ocean of my business!' (chap.I)

そして, 彼は次のような超能力を見せています。これも教科書にあるとおりです。

As the words were spoken, they [幽霊とスクルージです] passed through the wall, and stood upon an open country road, with fields on either hand. (chap. II)

はたしてリャノ先生の作品にディッケンズの影響があったのでしょうか。読み比べて見ると, 確かにそのようにも思えます。または, クリスマスの人々の心には隣人への愛の大切さを考える, ということが, 英国にもスペインにも他の世界にもあって, それが二つの作

品を生んだのだとも思えます。

今、Google で"Espíritu de (la) Navidad"や"Spirit of Christmas"を検索すると、4000 もヒットしました。「クリスマスの精霊」の「精神」(espíritu)は多くのキリスト教徒に共有されているものではないかと思えます。

文学や民俗学の研究をしたことがないので、私にはよくわかりません(リャノ先生に直接お聞きする、というのも1つの手段ですが、ご本人が影響を認めるか否かだけで、簡単な結論を出してよいものかどうか…。むしろ、無意識の根底にあるような世界を想像してみたくになります。

Q-11. スペインでは年末年始はどのように過ごすのでしょうか？

A-11. クリスマスには離れて暮らしている人も家族のもとに集まりクリスマスを祝います。12月24日にはクリスマスイブのミサにでかけ、12月31日の夜12:00には時計の鐘の音に合わせてブドウ粒を食べます。そして大騒ぎをします。子供たちにとっては1月6日の Reyes Magos が楽しみです。おもちゃなどの贈り物がもらえるからです。

文法

1. 未来・規則変化

Q-1. 未来形規則変化と点過去規則変化が似ているのは何故だろうか？ スペイン系の思考方法との関連性があるのではないか？

A-1. よく見ると語尾はあまり似ていません。ar 動詞のYO の形がé になることと、VOSOTROS が点過去で asteis, 未来で aréis になるので一部似ています。むしろ、haber の現在形とよく似ていますから比べてください。

Q-2. 完了形の he, has, ha と未来形の é, ás, á と似ているのはどういう関係があるのか？

A-2. 歴史的に関係があります。未来形の語尾は haber の現在形の変化に由来します。

Q-3. なぜ不定詞に haber の活用形がくつつくことで未来形をあらわすのだろうと思った。どうしてこうなったのか？

A-3. haber は中世スペイン語では「持っている」という意味でした。そこで、たとえば、comer he ならば「食べることを持っている」「食べることになっている」という意味になり、それが「食べるだろう」という意味に変わりました。

2. 未来・不規則変化

Q-4. ¡Hasta la semana que viene! と言いますが、何故¡Hasta la semana que vendrá!と
ならないのですか？

A-4. 未来形の基本的な意味は「推量」です。ここでは週が来ることは推量しているのでは
なく、確かな事実ですから現在形になります。Mañana voy al mercado. 「私は明日市場に
行きます」、というときも現在形になります。これも確かな事実として言っているからです。
この場合は未来形で iré と言うと、「意志」や「推量」の意味が強く出ます。

Q-5-1. poner や tener の未来形の d はどこから来たのですか？e, i が d に変わるのは母
音が子音に変わっていて変な感じがします。

Q-5-2. 未来不規則変化は3パターンありますが、どれがどうなるのか規則はあるのです
か？

Q-5-3. podré と pondré がややこしい。

Q-5-4. スペイン語は未来形の活用が楽で、一方過去については様々に変化する。なぜだろ
う。文化的な背景があるのだろうか？

A-5. 「未来形」についてまとめてお答えいたします。未来形の不規則形は、haber の形
が後続することによって、不定詞の語尾の e または i の強勢（アクセント）がなくなって
弱化したために生まれました。これが saber, poder, querer の不規則の由来です。

次に poner, tener, salir, venir で d が現れる理由は発音の仕組みによるものです。

たとえば tener では ner の e が先に述べた理由によって脱落すると nr という連続が生
まれます。さて、[n]の発音をするときは鼻腔に抜ける空気の道があります。[r]になると鼻
腔に抜ける空気の道が閉じられ、弾き音を発音します。その移行する部分で瞬間的にまだ
弾き音にならないときに、舌先が[n]の位置のまま鼻腔に抜ける空気の道が閉じられると、
[d]が生まれるのです。

また、第三種の hacer や decir が haré, diré になるのは、中世スペイン語ですでに語根
の母音だけでなく fazre や dizre という語根の子音 z までもが脱落したためです。

このように、未来形の不規則形は文化的背景によるというよりも、音声的な原因により
ます。

Q-6. 7課の授業を受けて未来形と現在形における未来の表現の意味の違いはわかりました。
ですが、英語で be going to の意味を表している ir a との意味の違いがよくわかりません。
どのような違いがあるのでしょうか？

A-6. たとえば、(1) Voy a terminar este trabajo.と(2) Terminaré este trabajo.を比べて見
ましょう。(1)では、Voy a...という現在形が使われているので、未来形(2)のような「推量」
の意味がありません。そこで、(1)には決然とした意志が感じられます。また、現在形なの
で「現在に近い時点で仕事を終える」ことを表明しています。一方、(2)は未来形なので、「仕
事を終える」こと、「終えるであろう」ことを予測しながら「推量」の意味を込めて「意志」

を表明しています。

文法を言葉で説明しようとするすると2つの違いがわかりにくいかも知れませんが、具体的な例で考えてみましょう。たとえば、上の2つの文を疑問文にするとどうでしょうか。(1) ¿Voy a terminar este trabajo?と(2) ¿Terminaré este trabajo? (1)には「私がこの仕事を終えるつもりだって? (そんな! そんな無茶なこと言ってないよ!)」というニュアンスがあります。(2)は「私はこの仕事を(果たして)終えることになるのかな?(大丈夫かな?)」という不確かさ、自信のなさを示しています。このように、(1)は「決然とした現在の意志」について疑問を呈し、(2)は「(私の)推量・意志」の内容について自問しています。このように、両者は現在と未来の時制の基本的な意味(未来形 = 「推量」の意味)を見ると、その違いがわかります。

Q-7. “~するつもり”はスペイン語では *ir a + 不定詞*、英語では *be going to + 不定詞*、共に「行く」という動詞が使われていますが、何か関係があるのですか? でき方が同じとか考え方が同じとかなのですか?

A-7. 私は歴史言語学を専門にしているわけではないので、推測に過ぎませんが、お答えします。*ir* も *go* も基本的な意味は、ある場所(こちら)から別の場所(あちら)へ移動する、空間的観点からの「行く」です。しかしそこから転じて、時間的観点から、ある時点(現時点)から別の時点に移動するという意味が派生し、未来や未来へ向けての意志を表すようになったのではないかと思います。

Voy a verlo. / I'm going to see him. これは、文脈によって「私は彼に会いに行く」とも「私は彼に会うところだ。会うつもりだ」とも解釈できます。しかし *Va a llover. / It's going to rain.* では *ir* や *go* は空間的観点から意味が失われて、この場合は近い未来を表しています。ご質問にあった言葉を借りれば、*ir* と *go* の使い方に関して、英語とスペイン語は「考え方が」似ているということになると思います。

4. 無主語文

Q-8. *hacer calor, tener calor* の使い方の違いについて。*tener hambre* などのように、*tener* ならば「持つ」の意味から何となくわかるのですが、何故 *hacer* の形も使われるのですか? また、*estoy frío* などの言い方はないのですか?

A-8. *hacer* は一般に次にくる名詞の動作を「する」という意味があります。たとえば *Hago ejercicio.* 「私は運動をする。」また「作る」という意味もあります。そこで *hace calor* が全体で「暑くなる」という動詞で使われるのです。そしてこの場合は主語はなく、「そうした現象がある」つまり「暑い」という意味になります。*hace calor* や *tengo calor* の *calor* は「暑さ」という意味の名詞です。また *hace frío, tener frío* の *frío* は形容詞のように見えますが、やはり「寒さ」という意味の名詞です。そこで、*estoy frío* のように *frío* を形容詞

として使うと「(体が)冷えている」という意味になります。ちょうど *La cerveza esta fría.* 「ビールが冷えています」と同じような感じです。また比喩的に「冷静である」という意味にもなります。

Q-9. haber que と tener que はどちらのほうが強い命令ですか？

A-9. 命令というよりは「～べきである」という当為・義務ですね。両者の違いは強い弱いではなくて、haber que は三人称単数の無主語文（7 課文法 3）にしか使えません。そこにながっている例は、*Hay que ir de prisa para coger el tren de las seis.*（六時の列車に乗るには [人は誰でも] 急がなくてはならない。）

「僕は～すべきだ」「××君は～すべきだ」というふうに主語が特定されているときは tener que の方を使わなくてはなりません。

5 . 数詞

Q-10. 授業の中で、英語の one billion とスペイン語の un billón は違うと教わりました。スペルが似ている所に注目すると、同じ語源だと思えますが、なぜこのように意味が変わってしまったのでしょうか？ 意味が変化するきっかけとなった事件などがあれば教えてください。また、ほかのヨーロッパ言語でも同じような変化はあるのでしょうか？

A-10. billón（英語では billion）には複雑かつ長い歴史があります。英語表記で billion が 10 の 9 乗（10 億）を表す国は、イギリス、アメリカ合衆国、オーストラリアなど主に英語圏の国々、10 の 12 乗（1 兆）を表す国は、スペイン、フランス、ポルトガル、イタリア、ドイツ、ハンガリー、ポーランド等々（国によって表記が微妙に異なります）。bi=by というのは 2 つという意味で、1475 年に Jehan Adam によって million（10 の 6 乗）の 2 乗ということで bymillion（10 の 12 乗）という言葉が提唱され、これが billion の語源です。ところが 1600 年代に一部の科学者が thousand（10 の 3 乗）の 2 乗=million, million×thousand=billion（10 の 9 乗）という意味で使い出し、その後長い間混乱状態にありました。19 世紀にはフランスが 10 の 9 乗の採用を決め、アメリカ合衆国がそれに従い、しかしイギリスは 10 の 12 乗を使っていた、といった具合でした。この混乱を解決するために、1948 年に General Conference on Weights and Measures が、billion は 10 の 12 乗としようとして決定しました。1961 年にフランスがそれに従いましたが、イギリスは 1974 年に今後イギリス政府は 9 乗の方を採用すると宣言し、英語圏諸国はイギリスにならいました。というわけで、billion と billón は語源は同じですが、スペイン語と英語では表す内容が異なります。

Q-11 スペイン語の質問ではないのですが、日本語のように、3 桁で数字を区切らない言語は他にあるのでしょうか？ そもそも何故日本語は 3 桁で区切らないのでしょうか？ 算盤の

桁の区切りも3桁ですから、中国から入ってきた数字も3桁区切りだったことが想像できますし、それ以前から万、億以上の単位を使っていたのも信じがたいです。その時代にそれほど大きな数を使用する機会があったのでしょうか？

A-11. 古代中国では「万」が大きな数の代表で、「億」「兆」の四桁区切りはそこから派生しました。日本語は漢字と一緒にそれを取り入れたわけです。もっとも漢代以前は「億」「兆」の字の使い方がいろいろで、「億」は「万」の十倍だったり百倍だったり、「兆」はそのまた十倍だったりしたそうですから、「億」「兆」に関しては中国語でも「四桁区切り」は魏晋南北朝以後に成立したわけです。

日本国語大事典第二版によると、平安時代の『往生要集』には、「億には四種類あります。十万の億と、百万の億と、千万の億と、万万の億です」とあり、室町くらいまでそういう例はあるそうなので、「億」と「兆」がはっきり四桁区切りになったのは、日本語でも近世になってからなのだと思います。

練習

Q-1. 4の(4)なのですが、未来完了形になるのに、¿Habré dejado mi teléfono móvil en casa?で「私は家に携帯電話を置いてきたのだろうか?」と言う訳になるのですか？又、何故ここで未来完了形を使うのかも良く分からないのです。現在完了形にはどうしてならないのですか？

A-1. 未来完了には未来に完了することを推量する場合と現在に完了していることを推量する場合とがあります。この場合は後者です。この文を現在完了にして¿He dejado mi teléfono móvil en casa?としてもよいのですが、そうすると推量の意味がなくなります。疑問文なので推量に近くなりますが、未来完了と比べると事実の確認のようになります。

その他

Q-1. 私は小テストでよく、単語（特に名詞）がわからずに点を落とすのですが、スペイン語単語は、ドイツ語選択者のようにバリバリ詰め込んでいった方が効率的なのですか？それとも、文法や語法の「理解」を中心にあまり意識せずに覚えていった方が良いのですか？他にも例文を丸暗記する方法などありますが...

A-1. 語学学習は文法の仕組みなどを覚えることも大事ですが、外国語を实际使うためには、同時に単語数を増やしていくことが必須です。1年生の段階では、やはり単語帳などを作ってどんどん暗記することをお勧めします。教科書 *Dímelo* に出てくる単語は日常使われる単語ばかりですので、ぜひとも全部覚えてしまうことを目指してください。方法は人それ

それだと思います。中学、高校時代、英単語をどうやって覚えていったか思い出して、がんばってみてください。

Q-2. 来年の夏に中南米を自転車で旅行しようと思っています。メキシコから南下して南米大陸に入ろうと思っているのですがあちらの治安はどうなのでしょう？旅行者が気をつけなければならない点について教えてください。

A-2. 私も最近廉価ですがクロスバイクを買い、街中を「シャーッ」と飛ばしています。そうすると、たしかに、自転車でラテンアメリカの世界をこうやって走れたらさぞかし面白いだろうなあ、という気持ちが湧いてきます。自転車は生活者の視点の高さで現実を見ることが出来ますから・・・

ただその考えもすぐに萎んでしまいます。というのも、ラテンアメリカ世界の幹線道路の恐ろしさをよく知っているからです。装甲車のようなトラックが猛スピードでばく進んでいく姿、道路わきに林立する小さな十字架の数々、歩行者を乗り越えるべき障害物くらいにしか考えない運転者の意識、日常的な飲酒運転・・・

これらの諸要素を考えますと、中南米自転車旅行にかなりの危険が伴うことは間違いのないと思います。治安については、これはもうそこに長期にわたって生活してみないとわからない魔物のようなものでもあります。また印象ですが、自転車旅行の文化が深く生活に融け込んでいるヨーロッパとは異なり、ラテンアメリカにはそれに対応するものは不在であると思われまます。

とはいえ、自転車の旅の持つ魅力は、走ったことのある者にしかわからない、かけがえないものだと思います。ですからどうでしょう、いきなり南米自転車旅行、ではなく比較的安全とされる国（と言ってここがよいです、というおすすめの国は私にはわかりませんが・・・）を一つくらいに絞って、普通の旅行者として観察してくるのは？そして実際に《走れる》という実感を得たならば、語学力をさらに磨き、「輪行」を次回に現実化するべく努力していく。その時も、まずは一つの国の内部旅行からはじめてみるのもよろしいのではないのでしょうか？

慎重すぎる意見と思われるかもしれませんが、何かお役に立てるのではないかと思いききました。

追記：先ほど「歩行者を乗り越えるべき障害物くらいにしか考えない運転者の意識」と書きましたが、これは全てのラテンアメリカの運転者がそうだというわけではまったくありません。シートベルトを締め、点検を怠らず、速度のコントロールを誠実におこなう運転者も大勢いらっしゃいます。ただ毎日のように彼の地で報道される歩行者を巻き込んだ悲惨な交通死亡事故（その多くの場合、加害者は裕福な階層の人物で、被害者の多くは貧困層の方たちです）のニュースに接しているため、敢えてこのように書いてしまいました。日本においても、昨今運転における無秩序ぶりが問題になっていますから、かならずしもラテンアメリカ独自の問題とは言えないのかもしれませんが、しかしそれにしても、彼の

地では我々の交通に関する常識を超える日常が展開されていることは事実だと思います・・・。(網野)